

インフルエンザにかかったら目を離さないで！

インフルエンザが流行期に入り、いよいよ感染に注意が必要な時期がやってきました。インフルエンザにかかること自体で異常行動のリスクがあることをご存知でしょうか？今回はインフルエンザの異常行動に関するお話です。

Q1. インフルエンザの異常行動とはどのようなものですか？

異常行動には、行動自体で生命に危険が及ぶ「重度な異常行動」と、行動自体は生命に危険は及ばないものの、通常みられないような行動である「軽度な異常行動」があります。典型的なものはインフルエンザにかかって最初の1～2日目に以下のような症状がみられます。

- 〈重度〉
 - ・突然走り出す
 - ・飛び降りようとする
- 〈軽度〉
 - ・会話中突然話が通じなくなる
 - ・無い物が見えるという
 - ・おびえる、わめく、泣き止まない
 - ・暴力をふるう、興奮状態になる
 - ・はねる、徘徊する
 - ・無意味な動作を繰り返す



Q2. 異常行動は何が原因で起きるのですか？

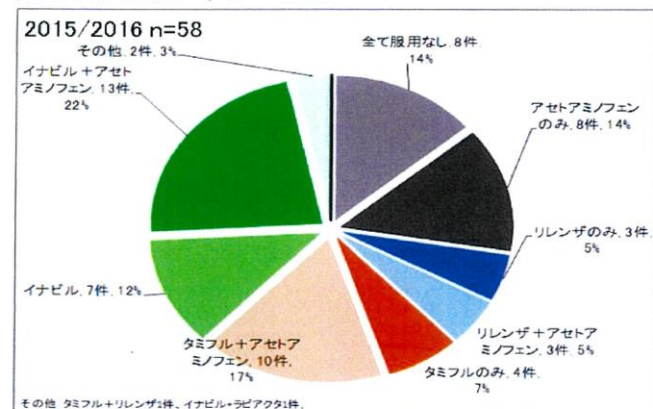
インフルエンザの異常行動が起きる原因は未だに明確ではありません。タミフルをはじめとした抗インフルエンザ薬の使用の有無にかかわらず、異常行動は発生しています(下図参照)。インフルエンザに感染すること自体で異常行動がおきる危険性があると考えてください。

Q3. 異常行動にはどのような特徴がありますか？

異常行動の発症時期は発熱から2日目までで80%を占めます。年齢は4,5歳～高校生まで分布し、性別では男児が多く(男女比約2:1)、異常行動の起きるタイミングとしては、「眠りから覚めてすぐにおきた」ものが73%でした。

インフルエンザにかかって重度の異常行動を示した患者数

○2015/2016年シーズン



Q4. 異常行動による転落などの事故を防ぐためにはどのような対策が必要ですか？

子どもがインフルエンザと診断され治療開始したのち、少なくとも2日間は保護者などは子どもを一人にしないことが大事です(寝ているときに発生することもあるので一人で寝ないようにしましょう)。

〈家でできる対策〉

- ①玄関や全ての部屋の窓の施錠を確実に
- ②ベランダに面していない部屋で寝かせる
- ③窓に格子のある部屋で寝かせる
- ④一戸建ての場合、できる限り1階で寝かせる
- ⑤階段は、簡単に登れないような措置を考える

Q5. 異常行動があったらどうすればよいでしょうか？すぐに医療機関を受診すべきですか？

日中に起きた場合は、医療機関に連絡し受診しましょう。夜間に異常行動があった場合、異常行動が軽度で短時間で消失する場合は、翌日まで様子を見ても良いですが、異常行動はインフルエンザ脳症の初期症状の場合もあるので、可能な限り医師の診察を受けたほうが良いです。



○2016/2017年シーズン

